

# キャリア支援プログラムの実施報告

## — 学生の主体性を育むキャリア支援プログラムの構築 —

服部典子

お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センター

### Report on Implementation of a Carrier Support Program — Development of a Career Support Program that Fosters Students' Positive Activities for Their Own Career Decisions —

Noriko HATTORI

Ochanomizu University; Student and Career Support Center

#### はじめに

大学が実施するキャリア支援では、職業観や職業に関する知識・技能を涵養し、自己の個性を理解した上で、主体的に進路を選択できる能力・態度を育成する(文部科学省, 2000)ことを目的として、情報・相談・セミナーから構成されるキャリアガイダンス(若松・下村(編), 2012)が行われている。お茶の水女子大学では、学生・キャリア支援センターがキャリア支援プログラムを企画して、年間を通してガイダンスやセミナー、ワークショップなどを実施しており、2016年度と2017年度の2年間で9,500名余りの学生が参加した。

本稿では、お茶の水女子大学学生・キャリア支援センターが企画するキャリア支援プログラムの内容を示すとともに、2017年度に実施したキャリア支援行事について報告し、今後のキャリア支援プログラムについて考察をする。

#### キャリア支援プログラムについて

お茶の水女子大学学生・キャリア支援センターが企画するキャリア支援プログラムは、全学部全学年を対象としており、ガイダンスとセミナー、ワークショップ、キャリア相談で構成されている。ガイダンスやセミナーは、大学の授業実施期間に合わせて年間を通して実施され、民間企業や公務員、教員を志望する学生に対して、採用に関する最新情報を提供するとともに、就職活動の流れや業界研究、自己分析、面接指導などの実践的な対策を行っている。ワークショップ

は、就職活動を終えた4年生と修士2年生が登壇する内定者懇談会や、多方面で活躍する卒業修了生を招くOG懇談会など、身近なロールモデルを通して学生自身がキャリアを考える機会を提供している。また、キャリア相談は、専門のキャリアアドバイザーが学生の進路選択や就職活動の相談に応じている。

2017年度のキャリア支援プログラムの企画にあたり、学生が自分の進路を主体的に考えることと、より一層プログラムに参加しやすくなることを目指して、プログラムごとの目的や内容の見直しが行われた。なお、この見直しは2016年度から継続して行われており、2017年度においては、キャリア支援プログラムを構成するガイダンス、セミナー、ワークショップ、キャリア相談それぞれについて、目的と内容(キャリア支援行事)が整理された(Table1)。具体的には、ガイダンスは進路選択や就職活動に役立つ情報提供を目的とし、セミナーは情報提供に加えて学生が自らのキャリアを考える機会を提供することとした。ワークショップは、講義型ではなく学生同士の対話を通して自分のキャリアについて考える場となることを目的とした。キャリア相談については、ガイダンスやセミナー、ワークショップとは別に、進路選択や就職活動において個別の支援が必要な学生を対象として、学生の状況に合わせたきめ細かなサポートをすることとした。また、各プログラムの目的は、ガイダンス等で学生に公開することを確認した。

以上により、キャリア支援プログラム(ガイダンス、セミナー、ワークショップ、キャリア相談)ごとの目的と内容が明確となり(Table1)、学生が自分のキャリアを考えるうえで自身の状況や目的に合うキャ

Table1 2017年度キャリア支援プログラムの目的と内容

	目的	内容
ガイダンス	進路選択や就職活動に役立つ情報を提供する	キャリアガイダンス、インターンシップガイダンス、就職総合ガイダンス、留学&就職ガイダンス、学内合同企業説明会直前ガイダンス、公務員試験ガイダンス、教員採用ガイダンスなど
セミナー	・学生が自身のキャリアについて考える機会を提供する ・就職活動を行う学生を支援する	インターンシップ準備講座、公務のインターンシップ業務説明会、会社の調べ方セミナー、企業発見セミナー、自分磨きセミナー（メイク講座）、学内合同企業説明会など
ワークショップ	・学生が主体的に取り組む活動や、学生同士の対話を通して、学生が自身のキャリアについて考える機会を提供する ・就職活動を行う学生を支援する	OG懇談会、内定者懇談会、マナー講座、自己理解、面接対策など
キャリア相談	進路選択や就職活動をするうえで個別支援が必要な学生をサポートする	完全予約制、当日受付制

リア支援行事を選択して参加することと、必要に応じてキャリア相談を利用することが期待された。

#### キャリア支援行事の実施内容

2017年度にキャリア支援プログラムで実施したガイダンスやセミナーは、Table1で示した目的に沿い、学生・キャリア支援センターの教職員がプログラムで実施する内容（キャリア支援行事）と実施時期を決定した（Table2）。キャリア支援行事は、2017年4月から2018年3月まで年間を通して予定され、各行事の実施時間は、学生が講義に影響なく参加できるように昼休みの時間を中心に実施することとした。また、学生が自分の予定に合わせて気軽に参加できるように、原則として事前予約不要とした。キャリア支援行事を行う場所は共通講義棟など学内の教室を利用することとし、学生の多数参加が見込まれるガイダンスやセミナーは大教室を会場とし、ワークショップはその内容に合わせて教室が決められた。

ガイダンスやセミナーにおいて講師を学外者（就職支援会社や資格試験予備校講師）に依頼する際は、事前の打合せでプログラムの目的を伝えたい詳細内容を決定した。さらに、学生向け投影資料（パワーポイント資料）や配布資料（レジュメなど）は事前に学生・キャリア支援センターの教職員がその内容を確認して、プログラムの目的と合わない場合はその内容の修正を依頼した。

キャリア支援プログラムの学生に向けた広報は、学生・キャリア支援センターのホームページに各行事の詳細内容を掲載することとした。さらに、学内掲示板

Table2 2017年度キャリア支援プログラム実施内容

	ガイダンス	セミナー	ワークショップ
2017年4月	キャリアガイダンス、インターンシップガイダンス、公務員試験ガイダンス、教員採用試験ガイダンス		
5月	教員採用試験ガイダンス	インターンシップ準備講座、公務のインターンシップ業務説明会	
6月	留学&就職ガイダンス、公務員試験ガイダンス、教員採用試験ガイダンス		
7月	キャリアガイダンス		
10月	就職総合ガイダンス、公務員試験ガイダンス	会社の調べ方セミナー、自己分析セミナー	内定者懇談会
11月	企業発見セミナー直前ガイダンス、教員採用試験ガイダンス	業界研究セミナー、自分磨きセミナー	OG懇談会
12月		企業発見セミナー	
2018年1月		会社の調べ方セミナー	
2月	学内合同企業説明会直前ガイダンス	自己分析セミナー	面接対策
3月		学内合同企業説明会	面接対策

（紙のポスターを掲示）、電子掲示板、学生教職員向けメールマガジン（OchaMail）、学内ポータルサイト、チラシなどを活用して広報を行った。

前期のキャリア支援プログラムは、4月に実施した全学年を対象とするキャリアガイダンス（参加者144名）から始まった。キャリアガイダンスでは、インターンシップや就職活動に役立つキャリア支援行事の活用方法と、前期に実施するキャリア支援行事の詳細情報が学生に提供された。続けて実施されたインターンシップガイダンス（参加者277名）では、学生がインターンシップに参加する際に必要となる学内手続きの説明会を兼ねており、学生・キャリア支援課の協力を得て実施された。5月には、インターンシップへの参加を希望する学生に対して、インターンシップの応募に必要なエントリーシートを作成するうえで必要な準備や、面接にも役立つ基本的なビジネスマナーのセミナーを6回実施した（インターンシップ準備講座：参加者750名）。留学を予定する学生に対しては、グローバル教育センターと連携して6月に留学&就職ガイダンスを実施した（参加者21名）。夏期休暇前の7月に実施したキャリアガイダンス（参加者65名）では、自分の進路を考えるうえで自己理解が必要であることを伝えて、充実した夏休みを過ごすことを勧めた。

後期のキャリア支援プログラムは、前期がインターンシップに関連する内容が中心であったことに対して、就職活動に関連する内容を軸として、就職総合ガイダンス（参加者128名）から始まった。就職総合ガイダンスでは、学生が就職活動の全体像を把握できるように一般的な就職活動スケジュールを示し、後

期に実施するキャリア支援行事の詳細情報と具体的な活用法を伝えて、各自の状況に合わせて準備を始めることを促した。また、後期は各企業の協力を得て実施するキャリア支援行事があるので、大学生として身につけておく必要があるマナーを再確認した。就職総合ガイダンスに続けて、学生が行う業界研究と企業研究に役立つことを目的として、会社の調べ方セミナー、自己分析セミナー、業界研究セミナー、企業発見セミナーを実施した(参加者1,222名)。業界研究セミナーと企業発見セミナーは、学生に対する一方的な情報提供だけではなく、学生が社会で活躍する方々と直接話をする機会を提供することも目的であり、学生・キャリア支援センターより協力を依頼した企業団体56社が参加した。

企業団体の就職活動以外に、公務員や教員を希望する学生を対象として、公務員試験ガイダンスと教員採用試験ガイダンスが実施された。両ガイダンスともに、採用試験に関する情報と求められる人物像などの情報が提供された。公務員試験ガイダンスは前期後期合わせて6回実施され、合計345名の学生が参加した。教員採用試験ガイダンスについては、前期後期合わせて5回実施され、合計85名の学生が参加した。

進路選択や就職活動に関する情報提供以外に、学生のサークル活動やアルバイトなど日常生活にも役立つことを目的として、お茶の水女子大学後援会の支援を受けて自分磨きセミナーが開催された(前期、後期参加者合計76名)。このセミナーでは、各自の魅力を活かす表情づくりのポイントや、講師によるメイク講座などが行われた。また、学生にとって身近なロールモデルとなる先輩(就職活動を終えた内定者、企業団体で活躍する卒業修了者)を迎えて開催した内定者懇談会とOG懇談会には、合わせて150名を超える学生が参加した。なお、2017年4月から2018年2月までに実施したキャリア支援行事に約3,600名の学生の参加があった。

#### 学生がキャリア支援行事を通して得た気づき

学生・キャリア支援センターでは、すべてのキャリア支援行事で参加学生を対象にアンケートを実施して、講座内容と実施時期の満足度を尋ねるとともに、気づいたこと、考えたこと、学んだことを自由記述で書かせている。アンケートに書かれた学生の記述内容は進路選択に向けての具体的な行動や、自分自身の進路を考えるうえで不安と感ずることなど多様である。

以下、キャリアガイダンス(4月、7月に開催)、留学&就職ガイダンス(6月開催)、就職総合ガイダンス(10月開催)に参加した学生の記述の一部を挙げる。

- ・1年生で参加するのは早すぎるかなと思ったが、あと数回出て自分の進路を考えるきっかけにしたいと思った。(4月キャリアガイダンス参加:学部1年)
- ・今回、将来についてももう少し情報を集めて考えねばと思い、勇気を出して来ましたが、低学年生徒も気軽に参加してよいと聞いて、もっと行事に参加してみようと思った。(4月キャリアガイダンス参加:学部2年)
- ・「広い視野を持つことが大事!」ということで、身近な人の職種ばかりに興味があったが、これからは幅広く話を聞いていきたいと思う。(4月キャリアガイダンス参加:学部3年)
- ・留学には行きたいと考えているが、短期か長期か決めかねていて、そもそも就職か院進かも決めていないので、せつかくの留学の機会を活かすためにもまずはキャリアプランを立てることが先だと思った。モチベーションがアップした。(6月留学&就職ガイダンス:学部2年)
- ・自己分析というものから逃げていたが、そろそろやらなくてはと思った。(7月キャリアガイダンス参加:学部3年)
- ・今回が就職について考える初めての機会だったので、このような機会が持てて良かった。スケジュールについて具体的に考えてみたい。(10月就職総合ガイダンス参加:学部1年)
- ・漠然と不安になることがあるが、まず冷静に把握して行動することが必要だと思いました。(10月就職総合ガイダンス参加:学部2年)
- ・進路を大まかに決めたものの、これで良いのか分からなくなった。より詳しく考える必要を感じた。(10月就職総合ガイダンス参加:学部3年)

#### 今後のキャリア支援プログラムに向けて

本稿では、お茶の水女子大学学生・キャリア支援センターが企画運営するキャリア支援プログラムの内容を示すとともに、2017年度に実施したキャリア支援行事について報告した。この報告を踏まえて、キャリア支援プログラムの今後の課題について考察する。

まず、学生がより主体的に自分のキャリアを考える機会を提供するために、学年や専攻に合わせたプログラムを提供することである。学部生においては、大学

入学直後の1年生と就職活動を迎える3年生では得たい情報が異なることは明白である。例えば、学部1年生を対象としたプログラムではキャリアを考えるうえで大学の学びから知識や教養を身につける重要性を理解させ、学部3年生には大学の専門教育と社会とのつながりを考える機会を提供するなど、学生が進路を考えるタイミングと合わせてキャリア支援プログラムを構築することが今後は必要であろう。また、大学院生(博士前期後期課程)を対象としたプログラムは、学部生時代にどの程度キャリアについて考える機会があったのかをアセスメントすることや、高い専門教育を受けた学生が自身の専門性をどの領域で活かすことができるのかを明確に意識する機会となるプログラムの検討が求められる。

次に、学生が多様な価値観や考え方に触れる機会を提供することを、キャリア支援プログラムの目的に組み入れることを検討したい。大学生が自らの進路を探索することは、これまでの経験と学びを結びつけるだけではなく、社会の活動のなかで求められる教養や知性、能力やスキル、将来の目標や夢など、様々な側面から探索する機会であり、この探索を経て、自分が納

得する進路選択につながると考えられる。これまでもOGや採用担当者と直接対話する機会をキャリア支援行事で提供しているが、学生にとっては就職活動の情報収集の場という認識が強かったと思われる。今後はワークショップなどを活用して、参加学生同士がお互いの価値観の違いを知ることや、自身の目標や夢を再発見するなど、学生のキャリア探索の機会を提供することができると考える。

#### 参考文献

- 文部科学省(2000). 大学における学生生活の充実方策について(報告)―学生の立場に立った大学づくりを目指して―.
- 若松養亮・下村英雄(編)杉本英晴・安達智子・半澤礼之・高澤健司・永作 稔・伊東眞行・田澤 実・番田清美・今西一仁(2012). 詳解 大学生のキャリアガイダンス論―キャリア心理学に基づく理論と実践 金子書房.

2018年2月23日 受稿